

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2974300093		
法人名	株式会社 エース		
事業所名	グループホーム太陽十津川 折立の郷		
所在地	奈良県吉野郡十津川村折立364-1		
自己評価作成日	平成22年5月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kai gosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内待原町8番地ソメカワビル202号
訪問調査日	平成22年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>アットホームな雰囲気を大切にしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、古くから慣れ親しんだ生活慣習のある地域に、十津川村唯一のグループホームを開設されてから、今年で6年目を迎える。運営者、管理者、職員が一つになって、地域の理解を得る為の働きかけを地道ながらも辛抱強く継続してきた結果として、行政や福祉関係者から当ホームの存在意義がようやく認められるようになった。利用者の思いに寄り添い家庭的な介護が行われており、利用者のはのんびり生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回及びその都度のミーティングが行なわれており、施設長等の指導もあり、理念は共有されている。	理念に掲げている通り、利用者や家族に安心と希望のある生活の実現と、地域に根ざしたグループホームをめざして運営者、管理者、職員共に理念を共有し実践に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、特に小、中学校行事に招待を受け、相互の交流が継続しつつある。	今年は自治会4班の組頭を担当し、神社の掃除や回覧物の配布、寄り合いに参加するなど地域との交流に努めている。地域の行事に利用者も共に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設事業として、ヘルパー及びデイサービス事業を実施する中で、相互に研修しあいながら従事する中で活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に1度の開催状況であるが、前回利用者も参加して頂き、参加者の共通意識が出来つつある。	住民課課長、職員、十津川村社協ケアマネ、家族代表など15名の参加を得て開催されている。推進会議と同時に、AEDの設置に伴いその使用方法についての研修も行なわれている。6月25日に次の開催が予定されている。	行政職員にはグループホームの存在意義が理解されており、協力関係が構築されているが、地域には理解されない部分がある。日常の交流を継続されることで徐々に理解が得られることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者もその都度訪問して下さり、特に生保の利用者の入院等についても蜜に連携しつつある。	役場担当者とは常に話し合いが行なわれており、避難訓練の指導を受けるなど協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待等の研修を通して基本は理解しているが、玄関、夜間の施錠については試行中。	マニュアルを作成し、それにそった研修が行なわれている。玄関の鍵については、事務所前は急な坂道になっており、利用者の認知症のレベル低下もあって、事務所に人のいない時間は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修をすることで職員全員意識している。(現在の課題として入浴の仕方について検討している。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当グループホームには制度利用されている方はおられませんが、基本的な理念として今年度研修課題に加えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に聞けているかは不明な点もあるが、出てきた課題については、誠意をもって対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の声かけや会話の中で、聞きとる努力は職員全員が心がけている。が出来ていないこともあり、徐々にやっていく。	家族来訪時には職員は話しやすい雰囲気作りを心がけ、声かけをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	研修や日々の会話の中で職員の意見を聞く努力はしている。	週1回行なわれるミーティング時や日常の会話の中で職員の意見を聞いている。運営者、管理者は常に事業所にいるため何時でも話せる環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者として職員個々の勤務状況はよく把握している。研修や資格取得の配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等は適宜声かけしている。ケアマネや介護福祉士受験、県内研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奈良の営業所との交流はしてきたが、これがこれからの課題の一つだと思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	即、理解できないことに対しても穏やかに対応する中で、安心できる環境づくりを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面接において、家族の主旨対し広く聴くことで、関係を大切にするように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期見極めにおいて実施し、そこで出てくる課題に即対応するため職員間の話し合いを蜜にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で「アットホーム」な雰囲気大切に する会話を心がけている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気がかりなこと等を職員に気軽に伝えて頂けるよう、面会時等に声かけをし、定期連絡を行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事に参加されたり、散歩時に、以前からの知り合いに声をかけられることもあり、楽しそうに会話されている。	地元の利用者が6名おられ、地域の行事参加や散歩時、通院時に知人に合うなど関係継続の支援がされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症という状態像の中でも、寄り添えるパートナー作りは大切であり、日々の日課の中で心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前より、長期入院時においても退院後の受け入れや、相談についても積極的に表明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常に人格、誇り、プライバシーを損ねない言葉かけや、理解できない場合も否定しない介護に努めている。	日常の会話や初期面談の記録から利用者の希望や意向を汲み取る努力をしている。利用者は食後自室で昼寝をする方やソファでくつろぐ方など自由に過されていて、どの利用者も穏やかな顔つきであった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	適宜、ファイルは見るようにしている。回想法的に御本人から出た情報を全員で共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の日記を気づいた時に少しずつ記入しており、全員が必要な時見やすくなっている。課題に対しては即相談している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議と日常の職員同志の日々の会話の中で検討して、現状に即した計画になるよう努めている。	初期面談で利用者、家族の要望を聞き取り、職員の意見や気づきを参考に介護計画書を作成している。	利用者の「したいこと」「できること」が盛り込まれた介護計画書と職員が手軽に記入出来る日々の記録の作成を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報の共有化は出来ていると思うが、日々の様々な気づきの記入方法については、今年の課題です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況の変化等については臨機応変に対応しているが、日常メニューについては工夫点は残されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年の利用者の事故死の経緯もあり、本人の特性を知って頂きながら地域にとけ込むよう心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	救急搬送にも時間がかかる地域であり、診療所との関係は強いが、家族による通院又は意見も大切にしている。	定期的に往診される医師はいないが、小原診療所が協力医療機関となっている。通院される利用者もあり家族や職員が支援している。協力歯科もある。職員は利用者の健康面の変化には特に注意をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2日、看護師が利用者一人ひとりと密に関わりながら相談及びケアをしている。そのことによる情報の共有化を大切にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	一つ一つの事例を通して、このことは大切にきています。特に、生活保護受給者の方の入院等の判断は難しく、役場の担当者と連携し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療、家族、行政及び本人との話し合いや連携は大切にしているが、その他の地域連携については課題です。	事業所開設当時から看取りに対応しており、看取りの指針を作成し、家族への説明や同意書も作成されている。職員研修も行なわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年、AEDが設置され講習を受けた。職員は手当ては出来るが、定期的な訓練を今後心がけていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員会議でも議題にあがっていて、職員の日々の自覚と訓練と地域の協力体制を心がけていく。	火災報知器、煙感知器、ガス漏れ遮断器、建物外お知らせベル、緊急通報装置など防災設備がされている。6月25日に台所からの出火を想定した避難訓練実施の予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の厳しい言葉にも余裕をもった声かけで対応している。	パニック状態の利用者に対しても穏やかな介護に努め、帰りたいの思いが納まらない利用者に対しても、利用者の思いに寄り添い、忍耐強く支援している。入室時には声をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の声かけ、会話の中でできるかぎり希望を聞く会話に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員体制の関係から出来ないこともあるが、表現された思いに対しては、そって行けるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘルパー2人が理美容師であり、カット、散髪等のケアをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一回一回の食事の会話の中で好みや食事への思いを確認している。準備への参加は今後の課題です。	利用者の認知度が進み、準備や片付けの出来る方は減ってきているが、食事前には皆で大きな声を出して楽しそうに口体操をしている。地場の野菜を使い栄養士の資格を持つ職員もいて家庭料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分量を記録し、一人ひとりにあつた支援に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方が2名、それ以外は声かけでされているが、個別に日々の中で確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個室にもトイレがあり、自力で行かれる方が多いが、トイレ誘導の必要な時も、さり気なく介助している。	オムツ使用者は1名と少なく、各居室にトイレがあって自力で行かれる方もある。定時誘導や利用者の動きを見て誘導するなど出来るだけ紙パンツや布パンツで過せるように支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録も注意しながら、食事内容、運動量など工夫し、必要に応じて処方された薬を使用。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否する方が一人おられたが、数名の職員の工夫と忍耐で現在のんびり入浴されている。	概ね週3回、10時から15時頃に入浴されている。入浴拒否の方がおられたが、職員のアイデアで今はゆっくり入浴されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	深夜起きてこられる方の場合など、ちょっとした会話やおやつを状況に応じて工夫して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書が綴られており、薬も工夫して保管しており、それぞれ変化した場合は連絡を蜜に行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事前の口体操のリーダーや「コロコロ」での掃除、洗濯物たたみ等飲んでして頂けることを心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には近隣の橋までの散歩が主ですが、車での外出など企画しながら工夫している。	近隣の橋までが日常の散歩コースになっている。地域のお祭りや花見、小中学校の運動会や文化祭にも出かけており、若年で元気のある利用者を買物時に同行してもらい、気分転換をはかるなどの配慮もされている。通院や墓参りなど家族の協力を得て行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	あまりお金を持つ機会がない。今後、中学のバザーなどでお金を使う体験をすることを考えていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日記のように書いている方はおられるが、今年の課題として絵手紙や電話など工夫していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境は刺激が少ないように工夫されている。季節感も多く採り入れているし、会話にも工夫している。	食堂兼居間は少し狭いが食卓の他にソファや小さいテーブルが置かれ、利用者は思いの場所でくつろいでいる。浴室は介助できる広さがあり、歩行訓練に最適な廊下がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のホールの中で、ぶつかり合いばかりだったが、利用者同士の会話がでてくるようになってきている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	面会に来られた時など各自で工夫されている。(先日エアーマットを購入した方は嬉しそうにされていました)	利用者にあわせて和室と洋室に分かれており、トイレと洗面台が設置されている。木製のタンスが置かれ、洗濯物が畳んでおかれていたり、入り口に可愛いタオルが掛けられるなど自室の雰囲気がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分から「したいこと」「できること」は、して頂いている。この自立の再検討も課題の一つだと思われる。		